



# 「聖夜～祈りの時間」

昨年の「サイトウ・キネン・フェスティバル」で僕の曲が演奏されて、松本との繋がりがはじめて出来た。  
 今年の夏には、SKジュニアにもご出演いただいて、ザ・ハーモニーホールで僕の個展演奏会も行われた。  
 そして今日がある。  
 「クリスマスコンサート」後半は、こうして僕の作った曲が3曲並ぶこととなった。

.....

まず、「はじめに神は天と地を創造された」。  
 なあんだ！「天地創造」の物語かあ！？  
 もちろん、最初はみんなが知ってる”はじめに神は天と地をつくられた”という、創世記第1章第1節のことばから始まる。

”しかし”。  
 様子が変だ。雲行きが怪しい。  
 ことばは、次のように続く。  
 ”しかし、それから何百万年かが過ぎ、  
 人は賢い生き物になった。  
 そしてある時言った。  
 今さら誰が神と語り合うと言うのかと。  
 我々の運命は、みずからの手にゆだねよう、  
 彼らはそう決心した。  
 こうして、地球最後の7日間が始まった”。

そう、これは「創世記」をパロディーにした、地球の、そして核を手にした人類の、滅亡へと向かう、最後の7日間の、その始まりを予告する曲だ。

.....

次の曲は、「歎びと悲しみの歌・笑いと涙の歌・生命と死の歌」と題された、イギリスの詩人ブレイクの「無垢の歌」「経験の歌」という詩による4曲の組曲。  
 「オギャー」と赤ちゃんが生まれたときの泣き声は、けっしてこの世に出てきた喜びの声ではなく、羊水に守られたお母さんの胎から、この世に放り出された、悲しみと苦しみの叫び声なのだという事を、聞いたことがある。  
 彼・彼女は、生まれた瞬間から、全身でこの世の厳しさを表現しているのだろう！  
 今日クリスマスは、まさにひとつの生命の誕生を歎びをもって迎える日。

まだ何にも汚されていない、生まれたばかりの生命。  
 その歎びを歌う。  
 しかし、人間は日々経験を積み重ねることによって、何かを得ることの代わりに、この無垢な状態を喪う。  
 その悲しみを歌う。  
 その先は・・・妬み、争い、恐れ、・・・涙、そして死の影。  
 あの生命の歎びはどこへ？

”かあさんのもと”、そうあの懐かしい母の胎内は、やはりいつかは帰りたい、ふるさとなのだろうか。

.....